令和７年度北海道こどもの意見反映推進事業

フィードバック資料

こどもに必要な居場所とは？

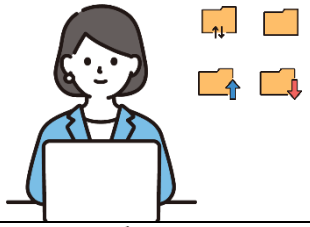
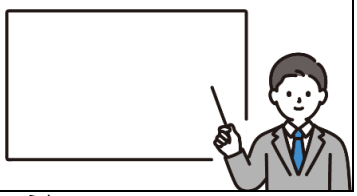
北海道保健福祉部子ども政策局子ども政策企画課

（１）　意見募集の概要

	対面	インターネットなど
い　つ	令和７年８月27日～11月14日	令和７年９月30日～12月５日
どこで	北海道内の６か所の学校	オンラインなど
だれに	生徒会に所属している人や、クラスの人など 150名（意見：1,390件）	北海道に住んでいるすべてのこども・若者（意見：352件）
方　法	学校を直接訪問して、ファシリテーターと対話しながら、思ったことを付箋に書き出してもらう方法で意見を聴きました。	匿名のＷＥＢアンケートや、訪問した学校以外でも同じ取組をしてもらい、意見を聴きました。
設問１	みなさんが毎日遊んだり、生活したりする中で、家庭や学校以外で、どのような居場所が欲しいですか？	
設問２	その居場所を「ここに居たい」「安心できる」と感じる居場所にするためには、どのようなことが必要だと思いますか？	

（２）意見の検討方法

沢山の意見をもらったので、次のような方法で検討を行いました。

順番	内容
①	学校訪問やWEBアンケートで、意見をもらう。 ↓
②	もらった意見を、担当する係の人が全部読む。 ↓
③	似ている意見をグループごとに分ける。 ↓ 
④	分けたグループごとに、反映方法を検討する。 ↓
⑤	反映結果を資料にまとめて、ホームページで発表する。 

※グループごとに分けた意見の一覧は、こちらのHPで公開しています。

（URL：https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kms/r6iken.html）

（3）意見の反映先

みなさんからもらった意見をとりまとめ、市町村や全道で居場所づくりをしてもらっている人たちに共有して、全道どこでも、こどもの気持ちに寄り添った居場所づくりができるようにします。

共有するときには、居場所をつくる人（大人）と過ごす人（こども）、どちらの気持ちもわかるように、居場所をつくる人から聞いた取組の内容（うまくいった工夫や大変だったこと）とあわせて伝えます。

そして、お互いの目線を大切にしながら、全道でよりよい居場所づくりが広がるように取り組んでいきます。

これからも、北海道のすべてのこどもが安全で安心して自分らしく過ごすことができる環境づくりを進めていきます。

（4）意見のポイントと活用方法

設問１：家庭や学校以外で、どのような居場所が必要だと思いますか？

意見のポイント	活用方法
商業・飲食・娯楽施設	
大きいショッピングモール、アウトレット、本屋さん、山岡家、すき家、ミスタードーナッツ、ラウンドワン、カラオケ	みなさんが、ふだん気軽に立ち寄ることができ、気分転換をしたり、友だちと一緒に過ごしたりできる場所として、買い物をする場所や飲食店、遊べる施設を「居場所」だと感じていることが分かりました。 商業施設や飲食店、娯楽施設は、北海道がつくったり運営したりすることはできませんが、引き続き民間企業とも連携して、「こどもまんなか」に向けた取組を続けていきます。
遊びや運動ができる場所	
遊具のいっぱいある公園、体育館、グラウンド、バスケットコート、野球場、プール 体を動かせる場所、楽しく運動できる場所	遊びや運動を通して、心や体をリフレッシュできる場所を求める声がありました。 北海道では、市町村などに意見を共有するとともに、今ある場所もより利用しやすく、安心して過ごせる場所になるよう、役立つ情報や、うまくいっている取り組みを伝えていきます。

意見のポイント	活用方法
安心・安全な場所	
安心できる場所、 安全なところ 相談できる場所、 どんなことでも相談できる 大人がいる場所	安心して過ごせる場所にするためには、安全に使えることや、困ったときに相談できる大人がそばにいることが大切だという意見が多くありました。 北海道では、こうしたこどもたちの声を、市町村や居場所を運営している人たちに伝えていきます。 その上で、相談に対応できる体制や、見守りの工夫などについて、うまくいっている取り組みを共有しながら、こどもが安心して過ごせる場所が増えるよう取り組んでいきます。
自由に過ごせる場所	
自由に過ごせるところ、 好きなことができるところ 自分をさらけだせる場所、 自分の意見が言いやすい場所	ルールにしばられすぎず、自分のペースで自由に過ごせる場所や、自分らしくいられる場所を求める声がありました。 北海道では、こうしたこどもたちの考えを市町村や居場所を運営している人たちと共有していきます。 その上で、「自分をさらけだせる」と感じられる空間づくりの考え方が生かされるよう、情報発信や意見の共有を行い、地域での居場所づくりを支えていきます。

意見のポイント	活用方法
交流できる場所	
友達と気軽に遊べる場所、友達とゆっくり話したりして過ごせる場所 趣味が合う人と集まれるところ、知らない人と仲良くできるところ、気軽にまちの人と交流できる場所	友だちや地域の人など、いろいろな人と出会い、つながることができる場所を求める声がありました。 北海道では、子ども食堂や地域の居場所など、人と人が交流できる取り組みを応援しています。 これからも、市町村や地域の団体と連携しながら、こども同士や地域の人が交流できる場所が広がるよう取り組んでいきます。
勉強できる場所・文化施設	
勉強できるところ、自習室、静かで集中できる場所、勉強に困らないサポートがある場所 図書館、美術館、博物館、科学館、郷土館、水族館、動物園	学習や読書、文化的な活動ができる場所も、こどもにとって大切な居場所であることが分かりました。 北海道では、勉強に集中できる環境や、文化施設を利用しやすくしてほしいという声を、市町村などに伝えていきます。 また、学習支援や文化活動を行っている居場所の取り組みについて情報を共有し、こどもが安心して学べる環境づくりを進めていきます。

意見のポイント	活用方法
体験できる場所	
いろいろな仕事を体験できるところ、体験できる場所、○○教室など、色々な体験ができる場所	仕事やものづくりなど、さまざまな体験ができる場所を求める声がありました。 北海道では、どんな家庭や環境で育っていても、すべてのこどもが元気に成長できるようにしたいと考えています。そのために、遊びや文化・芸術の活動、スポーツ、旅行などのいろいろな体験ができる機会を大切にしています。そして、こうした体験のチャンスが少ないこどもたちに、体験の場を用意している団体を応援しています。 これからも、体験活動を通してこどもの興味や可能性が広がることの大切さを、市町村や民間団体、企業などと共有していきます。
無料、低コストで過ごせる場所	
お金がかからずに遊べる場所、無料で出入りできる場所、安いご飯屋さん	お金の心配をせずに過ごせる場所が必要だ、という大切な意見をもらいました。 北海道では、子ども食堂など、無料や低料金で利用できる居場所を応援しています。 北海道では、これからも、市町村や地域の団体と力を合わせて、だれでも利用しやすい居場所づくりが広がるよう取り組みます。

設問２：安心して過ごせる居場所にするためには、どのようなことが必要だと思いますか？

意見のポイント	活用方法
安心・安全・人間関係	
安心できる人がいて自由に過ごせる	人に否定されず、安心して過ごせることや、やさしく声をかけてくれる大人の存在がとても大切だという声がありました。 北海道では、こうしたこどもたちの思いを、市町村や居場所を運営している人たちに伝えていきます。 その上で、互いに尊重し合える雰囲気や、安心・安全な人間関係が大切にされる居場所づくりを支え、こどもが安心して過ごせる場所が広がるよう取り組んでいきます。
否定をしない、その場所にいる全員がお互いに優しくできるようにする	
リラックスして自分らしく過ごせること	
周りの目を気にせず自由に過ごせる、怒られなくて自由に過ごせる	自由に過ごせることは、安心していられることにつながる大切なポイントだという声がありました。 北海道では、危ないことを防ぐためのルールは大切にしながらも、こどもが気を張らず、自分らしく過ごせる環境づくりの重要性を、市町村や居場所を運営している人たちに伝えていきます。

意見のポイント	活用方法
お金の心配をしなくていいこと	
お金がかからず自由に過ごせる、低価格でなんでもできる施設をつくる	お金の心配をせずに使えることが大事、という意見がありました。 北海道では、これからも、市町村や地域の人たちと力を合わせて、だれでも行きやすい居場所づくりを進めます。
清潔で使いやすい環境	
快適に感じる温度環境、適切な湿度、フリーwifiがある、ロッカー完備	安心して過ごすためには、気持ちよくいられる環境も大切です。 掃除や温度、空気など、細かいところも大事にする必要があるという声として伝えていきます。
大人の適切な関わり方	
施設の中に大人の目がきちんとあること、 監視が行き届いている	こどもが落ち着ける空間を作るためには、大人の目がきちんと行き届いていることが必要だという声がありました。 北海道では、新しく居場所をつくる大人への研修やサポートも行っています。 その中で、大人の適切な関わり方を求める声を伝えながら、すべてのこどもが安全で安心して過ごせる居場所づくりに取り組んでいきます。

意見のポイント	活用方法
人や社会とつながれること	
友達のいる自由に過ごせるところ 年齢関係なく誰でも行ける、色々な年齢の人が入れる 人と関わりを持てるようなイベントができるところ	人とつながれることが安心につながる、という意見がありました。 北海道は、市町村や居場所を運営している人たちに、年齢に関係なく、いろいろな人が集まれる居場所づくりを大切にしてほしいと伝えます。
みんなが守れるルールがあること	
ルールを守ること、みんなのことを考える	安心して過ごすためには、みんながルールを守ることが必要だという声がありました。 北海道は、市町村や居場所を運営している人たちに、こどもにも分かりやすく、みんなが守れるルールを大切にしてほしいと伝え、ルールを通して、安心できる居場所づくりを進めます。
いろんな過ごし方を選べること	
ひとりになれる場所も沢山で遊べる場所もある 遊ぶときの選択肢が沢山欲しい 騒いでOKエリアと静かにするエリアで分ける	「そのときの気分で、過ごし方を選びたい」という声がありました。 北海道は、市町村や居場所を運営している人たちに、静かに過ごせる場所や、にぎやかに遊べる場所を分けるなど、こどもが選べる工夫をしてほしいと伝え、いろいろな過ごし方ができる居場所づくりを応援します。